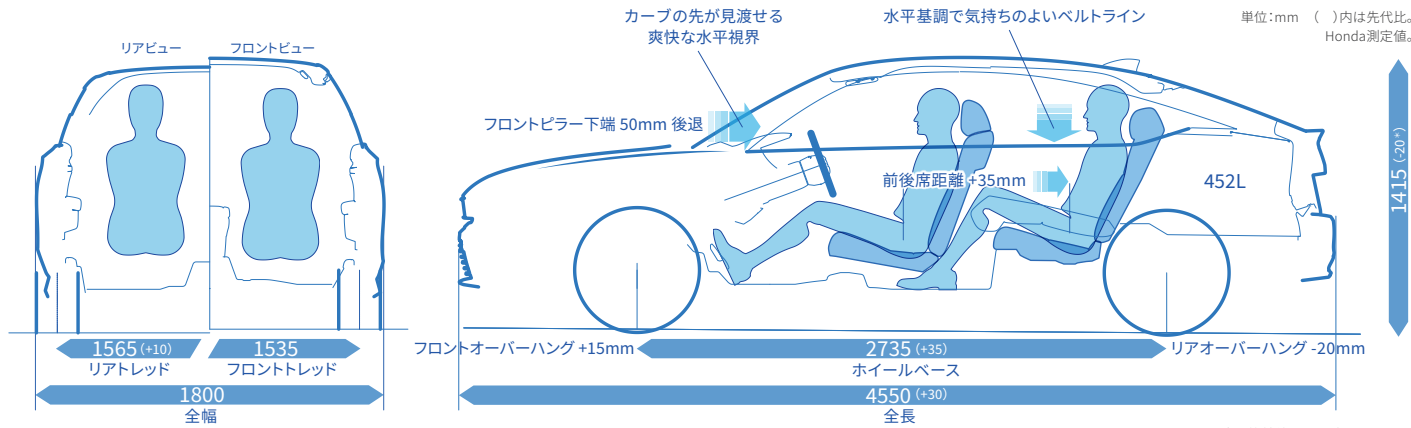


走りのプロポーションを進化させた、爽快パッケージ。

■ディメンジョン

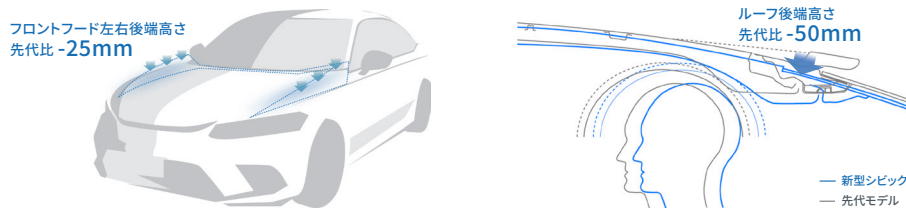


* アンテナを含む比較値。ルーフ高さは-5mm。

先代モデルが確立したスポーティーな基本骨格をさらに進化させました。ホイールベースを35mm、全長を30mm延長する一方、リアオーバーハングを20mm短縮。リアトレッドを10mm拡大することで、のびやかでありながら、より安定感のあるスタンスを実現しています。また、ホイールベースの延長により、前後席の距離を35mm拡大し後席居住性を向上させました。

低重心スポーティーフォルム

サイドウィンドウの下端が描くベルトラインを低く水平基調に設定。フロントフードの左右後端は先代モデルに対し25mm低くしました。ルーフ後端は、テールゲートヒンジのボリュームを削減することで、後席ヘッドクリアランスを先代モデル同等としながら、ヒンジ付近のルーフ高さを50mm^{※1}低減し、リアエンドまでスリークな傾斜を実現。これらにより、低重心スポーティーフォルムを創出しています。



大きく使いやすいラゲッジスペース

リアオーバーハングを短縮しながら荷室容量を32L^{※2}拡大。荷室と荷室下収納を合わせラストストップレベル^{※3}となる452L^{※4}の大容量を実現しました。荷室には、先代モデル同様に9.0型のゴルフバッグが3個^{※5}、カーゴエアーカーブ下に収納可能。荷室下収納は42Lの大容量を確保し、常備したい荷物の収納や、汚れ物を分けて積みたい場合などに活躍します。開口部は、最大幅に加え、使用頻度の高い手前部分の幅を拡大。さらに、テールゲートの開閉軌跡を先代モデルに対し37mm短縮^{※6}するなど、積み降ろしのしやすさも大きく向上させました。



※1 先代モデルのルーフスポイラー位置での比較。Honda測定値。

※2 LXの場合。荷室と荷室下収納の合算値による比較。Honda測定値。

※3 2021年8月現在。Cセグメントの主要なハッチバック車。Honda調べ。

※4 LXの場合。荷室と荷室下収納の合算値。Honda測定値。

※5 形状・サイズ等によっては積載できない場合があります。

※6 リアタイヤを基準としたHonda測定値。